

千葉県感染症発生動向調査情報

2015年 第39週 (9/21-9/27) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		39週	38週	37週	36週
小児科		18	17	18	18
眼科		5	4	5	5
インフルエンザ*		27	23	27	27
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 9/14-9/20 38週
		注意報	9/21-9/27	9/14-9/20	9/7-9/13	8/31-9/6	
			39週	38週	37週	36週	
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	2 0.12	7 0.39	3 0.17	71 0.54
	咽頭結膜熱		0 0.00	3 0.18	7 0.39	8 0.44	38 0.29
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		14 0.78	36 2.12	18 1.00	25 1.39	256 1.95
	感染性胃腸炎		46 2.56	59 3.47	60 3.33	43 2.39	323 2.47
	水痘		2 0.11	6 0.35	1 0.06	5 0.28	36 0.27
	手足口病	↓↓★★	95 5.28	154 9.06	118 6.56	149 8.28	891 6.80
	伝染性紅斑	↓	10 0.56	16 0.94	21 1.17	15 0.83	72 0.55
	突発性発しん		3 0.17	16 0.94	19 1.06	17 0.94	57 0.44
	百日咳		0 0.00	1 0.06	0 0.00	0 0.00	5 0.04
	ヘルパンギーナ		3 0.17	18 1.06	12 0.67	20 1.11	123 0.94
流行性耳下腺炎		10 0.56	3 0.18	11 0.61	9 0.50	89 0.68	
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	0 0.00	0 0.00	0 0.00	11 0.05
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		6 1.20	7 1.75	3 0.60	5 1.00	26 0.81
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	1 0.11
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	4 0.44
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	女性	30歳代	病理学的特徴的所見	レジオネラ症	男性	50歳代	病原体抗体の検出
結核	女性	80歳代	病原体遺伝子の検出	梅毒	女性	10歳代	血清抗体の検出

・結核2件(168)、レジオネラ症1件(10)、梅毒1件(10)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第39週のコメント

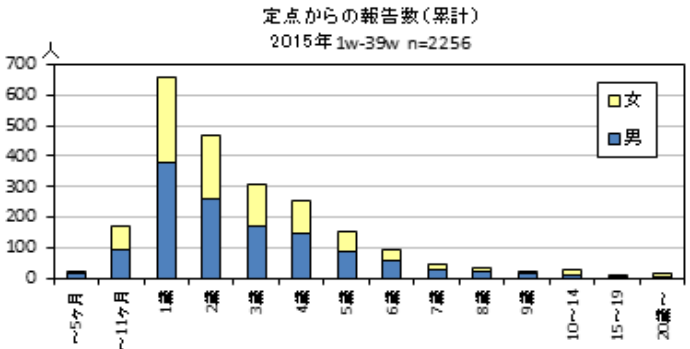
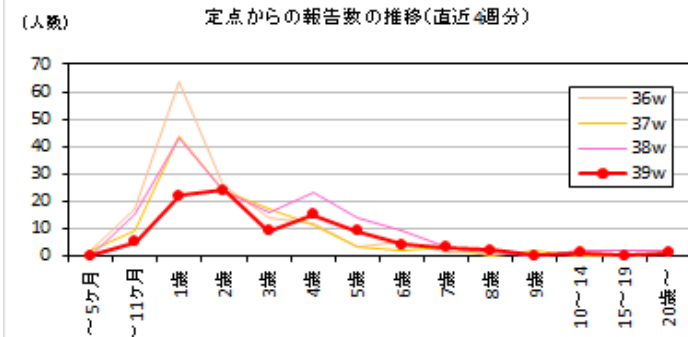
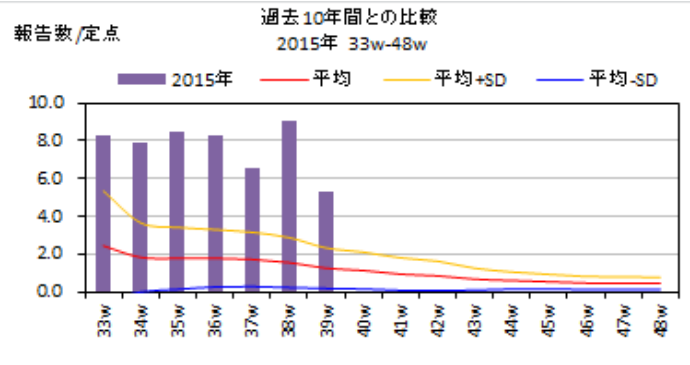
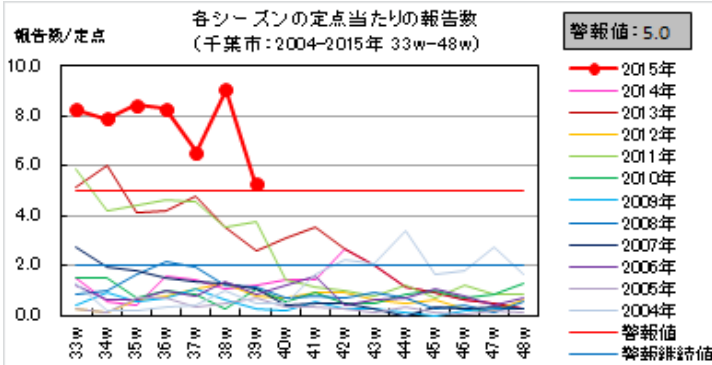
<手足口病> 前週より減少し5.28となった。流行発生警報開始基準値は上回ったままで、過去10年の同時期と比べると最多。

<伝染性紅斑> 前週より更に減少し0.56となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜手足口病＞

全国レベルの第38週現在は、前週より減少しましたが過去8年の同時期と比べると最多で、流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回っています。都道府県別では、宮城県、新潟県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより多くなっています。千葉市の2015年第39週は前週から大幅に減少し5.28となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多で、流行発生警報開始基準値を上回ったままです。区別の発生状況は、稲毛区及び若葉区で流行発生警報開始基準値を上回っており、中央区及び美浜区は流行発生警報終息基準値を上回り、緑区及び花見川区は流行発生警報終息基準値を下回りました。稲毛区(17.3/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第39週までの累積報告数(n=2256)によると、性別では男性が57.5%(1298名)、女性が42.5%(958名)で、年齢階級別では1歳(29.2%:658名)、2歳(20.6%:465名)、3歳(13.6%:307名)の順に多くなっています。



＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第38週現在は、過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、鹿児島県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2015年第39週は前週より減少し0.56となりましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、稲毛区(1.33/定点)で依然として流行発生警報終息基準値(1.0/定点)を上回り最多となっており、同区の5歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第39週までの累積報告数(n=620)によると、性別では男性が53.9%(334名)、女性が46.1%(286名)で、年齢階級別では5歳(16.0%:99名)、6歳(15.0%:93名)、4歳(14.8%:92名)の順に多くなっています。

